

旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 世界の各都市の都市計画について
- 川や水辺を活かしたまちづくりについて

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

- クルーズできる水路について
- 以前のお堀や暗渠(あんきょ)など水路の使われ方について

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。



Sustainable Cities and Communities
Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable

〈参考:外務省訳〉「住み続けられるまちづくりを」 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

都市の理想を、富山から。



富山城の歴史と明治初期の治水のための大土木工事を知る 松川遊覧船クルーズ

Sustainable Development Goals



◎大雨にも強い
レジリエンスなまち

課題

大雨のたびに
洪水に脅かされるまち

富山藩10万石の歴史が残る富山城址公園。そのそばを流れる松川は、富山城を守った天然の外堀・神通川の名残りです。

神通川は岐阜県から富山県を流れて日本海へそそぐ、豊富な水量と傾斜の大きな富山県内最大の川です。

かつては富山市中心部を大きく蛇行して流れていたため、大雨のたび洪水の絶えない暴れ川でした。

橋をかけることも難しく、橋脚を立てない船を並べた橋がかけられていました。

たび重なる洪水に悩まされていた市民が、その流路を変更する工事と都市計画により富山の街は現在のように姿を変えてきました。

その姿の変遷をたどりながら富山の治水まちづくりの歴史とかつての神通川の流れをたどるクルーズです。



旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- 川が蛇行していることによるまちにとっての良い点、悪い点は何だろう?
- 馳越線(はせこしせん)工事の後に川の一部が残されたのはなぜだろう?
- 馳越線工事が行われたことによって発生した良い点悪い点は何だろう?

年 組 名前

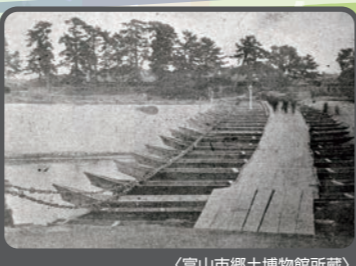
●常夜灯
神通川に架かる船橋の両岸には常夜灯が置かれ、一晩中明かりが灯され、夜道の安全のための道しるべとなりました。現在、右岸側が松川に架かる舟橋のもとに、左岸側が県森林水産会館前に残されており当時の川幅を忍ばせます。



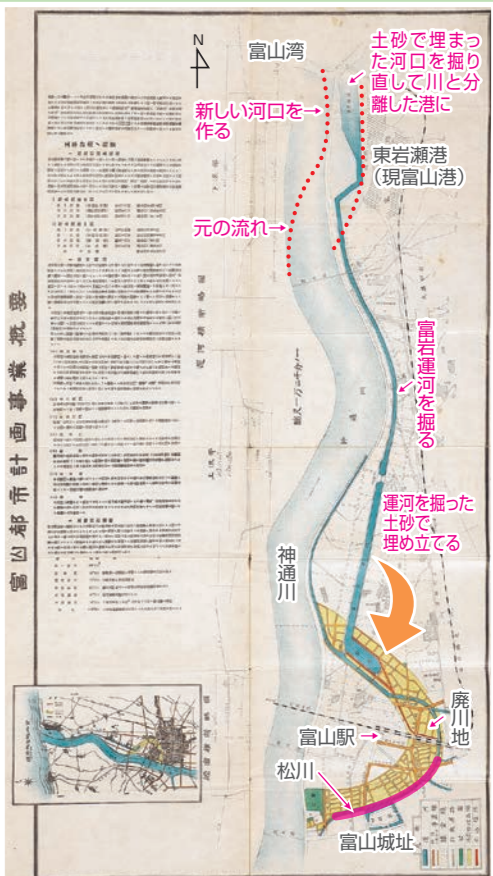
●富山名物「鱒の寿し」が誕生した場所
川沿いには鱒寿司屋さんが4軒残っています。なぜだろう？



●神通川の舟橋の名残り
何艘くらいの舟を並べてつくられていたのだろうか？なぜ船橋がかかっていたのだろうか？川幅のわかる橋の距離はどのくらいだったのだろう？



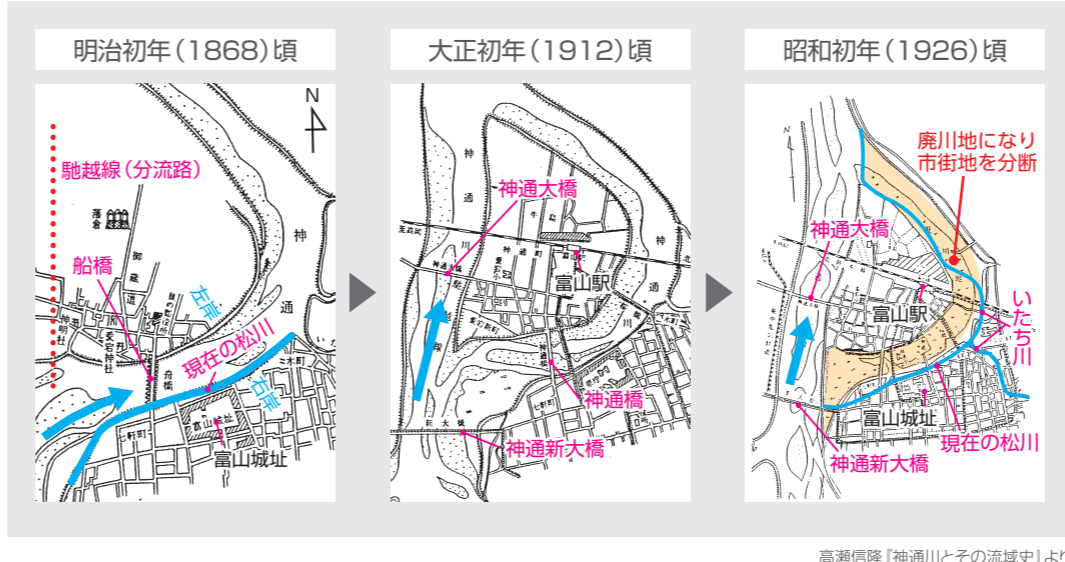
●木町の浜
江戸時代には、東岩瀬から北前船の物資を帆掛け船が木町の浜まで運んできていた撮影地点：現在の松川茶屋横



松川のプロフィール

富山藩10万石の歴史が残る富山城址公園。そのそばを流れる松川は、富山城を守った天然の外堀・神通川の名残りです。神通川は岐阜県から日本海へ流れる120km、流域面積は約2,720km²で佐渡島の約3倍。富山県を流れる川では最大の一級河川です。戦国時代には神通川を天然の堀として富山城が築かれ、佐々成政が拠点に活躍し、その後、加賀前田家2代・前田利長、3代・利常の次男で富山藩初代の利次が、城・城下町を整備しました。富山藩2代・正甫は、富山売薬を全国に広め、産業の礎を築きました。神通川に架けられた日本最大の船橋の側の茶店では鮎ずしが売られ、現在の鱒のすしにつながりました。また東岩瀬からは、北前船で運ばれてきた様々な物資が船で運ばれました。しかし、蛇行する神通川により市街地がたびたび洪

水の被害を受けたことから、明治政府が派遣したオランダ人技師のヨハネス・デ・レーケの提案のもと、明治34年(1903)から大正にかけて、馳越線(はせこしせん)〈分流路〉を創る工事が行われ、大正12年(1923)には、もとの流れは廃川地となり流れがうつりかわりました。神通川の蛇行部分に水が流れなくなると120ha(東京ドーム約25個分)という広大な廃川地が市街地を分断することになり、その対策が課題でした。富山市では、馳越線工事によって舟運が難しくなった神通川に代わって新たな運河を掘り、その土砂で廃川地を埋める、富山県ではじめての総合的な都市計画が採用され、昭和10年(1935)に運河が完成、廃川地は埋め立てられ土地区画整理事業が竣工。現在の官公庁街へと姿を変え、その一部の残った流れが現在の松川です。



昭和初期の神通川廃川地区の写真(富山市郷土博物館所蔵)

◆ 気になったことを書いてみよう。

高瀬信隆『神通川とその流域史』より